

第55期（2023年7月～12月）

7月例会（2023年7月20日）

テーマ：「内外の金融経済情勢と金融政策について」

講師：大槻 奈那 氏（ピクテ・ジャパン シニア・フェロー／名古屋商科大学大学院 教授）



講師：大槻 奈那 氏



講演の様子

コーディネーターの視点

欧クレディ・スイスや米シリコンバレー銀行の破綻に見られるように、我々はいま、「金融動乱」というべき経済の脆弱性に直面しています。大槻先生は様々な指標から米国・日本経済の現状と行く末を分析されるとともに、この半世紀における金融危機発生メカニズムを描き出し、独自の視点からショック・シナリオを提示されました。2008年のリーマンショックから15年が経過したいま、改めて危機の時代に備える必要があるでしょう。その際に求められるのは広い視座と情報を読み解く力であり、それを体現されていた大槻先生のご講演は、非常に示唆に富むものであったと思います。

8月例会（2023年8月24日）

テーマ：「戦後日本の安全保障観と今後目指すべき姿について」

講師：千々和 泰明 氏（防衛省防衛研究所 主任研究官）



講師：千々和 泰明 氏



講演の様子

コーディネーターの視点

ロシアによるウクライナ侵攻や米中対立、台湾有事の懸念など、日本は戦後、最も厳しい安全保障環境に置かれています。偶発的な出来事で、一触即発、不可逆な事態へと発展する可能性も日々高まっており、安定した世界秩序の構築に向け、これまで以上に日本の果たすべき役割が問われています。しかし、日本国内では、例えば、自衛隊の存在や集団的自衛権の是非など、「入口」の議論に集中し、肝心の「中身」の議論が深まっているとは言えない状況が長く続いています。今回のフォーラムでは、千々和様から、戦後日本の「安全保障政策」や日本（人）の「安全保障観」について、歴史的視点から俯瞰してご講演いただきました。「一国平和主義」から脱却し、世界秩序の安定に向けて、日本はどう貢献していくべきなのか、その目指すべき方向性を再認識するよい機会となりました。

9月例会（2023年9月21日）

テーマ：『ChatGPT時代のリスキリング』～失業なき産業への労働移動を実現する～

講師：後藤 宗明 氏（一般社団法人ジャパン・リスキリング・イニシアチブ代表理事/
SkyHive Technologies 日本代表）



講師：後藤 宗明 氏



講演の様子

コーディネーターの視点

「リスキリング＝学び直し」ではない！ 個人が自由に好きなことを学ぶ「学び直し」とは異なり、「リスキリング」はDXや組織の変革に応じて、従業員に新しいスキルを習得させること。後藤宗明講師は、「組織が実施責任を持つもので、業務ととらえるべき」と強調されました。従業員のスキルを可視化し、事業の新しい方向性と合致させたいと、必要とされるスキルは何かを明確にする。従業員という資産をどう生かすかは企業の責任であり、企業の競争戦略にも不可欠であることがよくわかる内容でした。

10月例会（2024年10月19日）

テーマ：「カーボンニュートラル時代の企業経営」

講師：夫馬 賢治 氏（株式会社ニューラル 代表取締役 CEO／信州大学特任教授）



講師：夫馬 賢治 氏



講演の様子

コーディネーターの視点

夫馬さんからは、地球の危機的な状況とともに、なぜ今、私たちがこのカーボンニュートラルという目標を実現しなければならないのか、網羅的に話を頂いた。また、この気候変動の原因をつくれた私たち「人間」がどう変容していかなければならないのか、危機感をあおるだけではなく、未来への希望も含めながら示唆してくださった。

2050年のカーボンニュートラルの目標は苦しいだけの道のりではない。それへの対応が必ず、企業や国の成長の機会となりうる。だからこそ、企業はいま一社だけではなく、ステークホルダーを巻き込みながら社会全体、経済エコシステム全体の変革を起こしていきたい。そんな熱いメッセージを発信してくださった。

11月例会（2023年11月16日）

テーマ：「生成AI技術の発展が企業や働く人々に与える影響とは」

講師：山本 勲 氏（慶應義塾大学商学部 教授）



講師：山本 勲 氏



講演の様子

コーディネーターの視点

生成 AI に代表されるテクノロジーの革新は、企業と労働者にどのような影響を与えるのか。山本先生からは、ともすれば安易な印象論で語られがちな本テーマに対して、経済学の理論や実証研究を元に明確な解説をいただきました。技術革新は企業の生産性のみならず働く人のウェルビーイングも向上させますが、そうした「イノベーションの果実」は、それらを幅広い人が享受できるようにする制度や教育、つまり「補完的イノベーション」とセットにならなければ、格差拡大につながりかねません。いま日本企業に求められる補完的イノベーション（業務フロー改善、人的資本経営、労働市場改革など）にも具体的にご言及いただき、多くの気づきを得られる機会となりました。

12月例会（2023年12月21日）

テーマ：「中国経済と対中国政策の動向」

講師：三尾 幸吉郎 氏（ニッセイ基礎研究所経済研究部 上席研究員）



講師：三尾 幸吉郎 氏



講演の様子

コーディネーターの視点

「米国がくしゃみをする」と日本が風邪をひく」という言葉がありますが、文頭の“米国”が“中国”に置き換わってもおかしくないほど、中国は日本と「ヒト・モノ・カネ」で複雑に結びついています。三尾先生は不動産市場の低迷（バブル崩壊）や少子高齢化など様々な指標から、中国の成長率は鈍化し、10年後には2%台になるとのシナリオを提示されました。中国への過度な依存を放置するのは危険との共通認識が世界各国に広がる中、日本は他国と連携しながら“デリスクリンク”を目指すべく橋渡し役を果たすべきとの三尾先生のご提言は、これからの対中国戦略を考えるうえで大きなヒントになるのではないのでしょうか。